

経営比較分析表（平成30年度決算）

宮城県丸森町 丸森町国民健康保険丸森病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	5	-	ドI	救臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
13,646	6,360	第2種該当	13:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

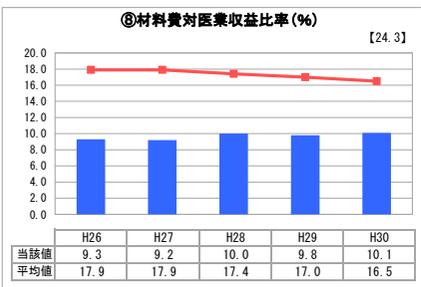
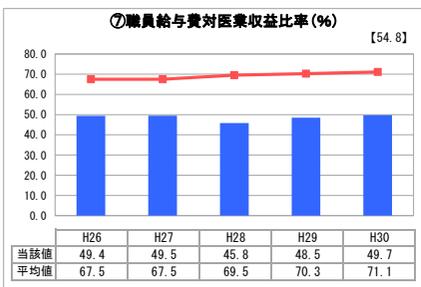
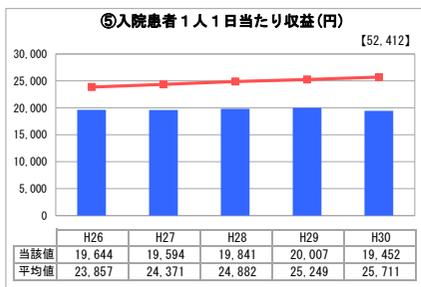
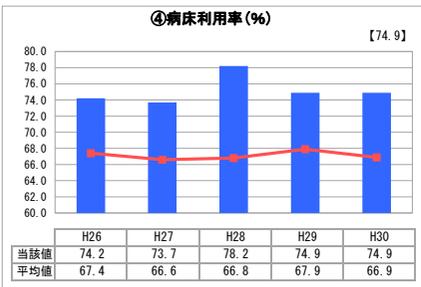
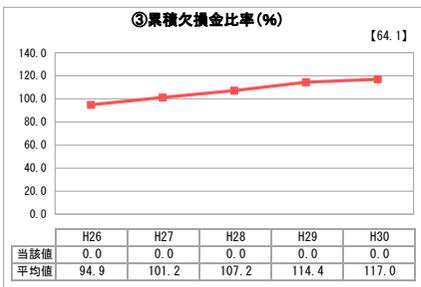
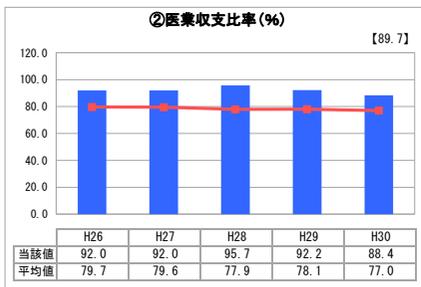
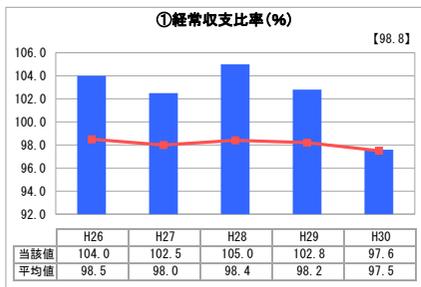
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
55	35	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	90
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
55	35	90

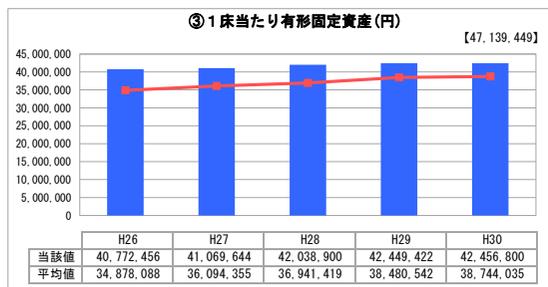
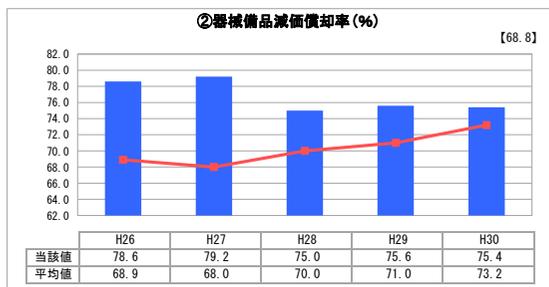
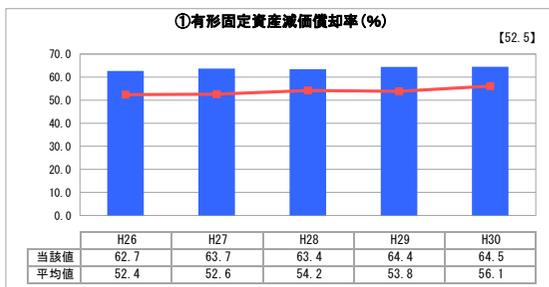
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

町内唯一の一次医療を担う基幹的な医療機関として、保健・医療・福祉の連携を図りながら、町民の生命と健康を守るため、良質な医療を安定的に提供するとともに、各種健診・健康づくり事業などの疾病予防、介護予防に積極的に取り組み、地域の医療水準の向上に貢献する。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

病床利用率が昨年度とほとんど変わらないにもかかわらず、入院患者1人1日当たりの収益は、555円減少している。これは、入院単価の高い一般病床の入院患者減少分とほぼ同数、入院単価の低い療養病床の入院患者が増加したことによる。

一方、職員給与費対医業収益比率及び材料費対医業収益比率は、昨年度と比較すると高くなっている。また、利益の分岐点である経常収支比率は6年ぶりに100%を下回り、医業収支比率も昨年度と比較すると下回っている。

以上のこと及びここ数年間の各種経営指標を見ると、徐々にではあるが経営の健全性及び効率性が失われつつある。今後、抜本的な経営改革が必要となる。

2. 老朽化の状況について

病院本体建物は築22年であり法定耐用年数内にあるものの、本体と一体となっている空調や電気などの機械設備などは、法定耐用年数を経過している。

また、医療用器械備品については、必要に応じて更新しているものの、すべて対応しきれず、法定耐用年数を経過しているものが多い状況にある。このようなことから、データが示すとおり、器械備品の減価償却率は75.4%になっているが、建物本体の未償還分が多いことから、施設全体での減価償却率は64.5%と少し低くなっている。

しかしながら、施設全体での償却率が60%を超えていること、全国平均を上回っていることから、有形固定資産の状況は、総じて老朽化が進んでいるといえる。

全体総括

当院は、施設全体が老朽化していることに加え、令和元年の台風第19号により、大きな被害を受けた。災害復旧を最優先で行いつつ、令和元年は、老朽化している施設の改築も行わなければならない状況にある。

入院及び外来診療を一時休診とした期間もあり、相当な医業収益の減少が予想される。いかに高率の補助事業を導入しても、1/3の自主財源が必要となる。その財源確保が最大の課題であり、課題となる。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。